

AZ-COM丸和グループ代表の和佐見勝が 「東京大学稷門賞」を受賞しました

この度、国立大学法人東京大学の活動の発展に大きく貢献した個人、法人又は団体に対して感謝の意を表すために設けられた「東京大学功績者顕彰制度」により、AZ-COM丸和グループ代表の和佐見勝（わさみまさる・AZ-COM丸和ホールディングス株式会社 代表取締役社長/株式会社丸和運輸機関 代表取締役社長）が個人として、令和4年度「東京大学稷門（しよくもん）賞」を受賞しましたのでご報告いたします。

授賞式は2022年9月27日（火）17時30分より、伊藤国際学術研究センター 伊藤謝恩ホール（東京大学本郷キャンパス内）にて執り行われ、東京大学総長の藤井輝夫様より表彰状が贈呈されました。

【受賞理由】

- ・「東京大学 丸和 柏FUSION フィールド」に対する寄付は、柏地区全体として持つべき機能の1つである「運動施設」の機能整備に多大な貢献をもたらす。
- ・同フィールドは、全学的に推進するFUSION フィールド構想の柏キャンパスの拠点として、和佐見氏が代表である株式会社丸和運輸機関とスポーツ先端科学連携研究機構（UTSSI）との共同研究の場であり、その成果は全ての人々が活躍するダイバーシティ社会への貢献に寄与することが期待される。
- ・同フィールドに様々な研究者が集い、未知の領域にチャレンジする研究の場となることも期待できる。
- ・本学の21世紀における新たな学問の発展という柏キャンパスの建設構想にも合致するものであり、本学に多大な貢献をもたらすものと評価された。

【受賞式の様子】



授賞式会場



左：藤井総長 右：和佐見



受賞者挨拶

【稷門（しよくもん）とは】〔東京大学ホームページより引用〕

中国の戦国時代の齊（現在の山東省）の首都の城門の名前です。齊の威王、宣王が学者を厚遇したので、齊の都に天下の賢者が集まり、学問が栄えたという故事をこの賞の名称は踏まえています。稷門付近は「稷下」と呼ばれ、多くの学者が集まったことから、「稷下の土」という言葉も生まれました。（出典『史記』）

【受賞者挨拶・和佐見勝】

藤井輝夫総長様から、栄えある東京大学稷門賞を授与いただき、誠にありがとうございます。

この度は、東京大学 柏キャンパスの整備について、ご協力させて頂きました。天然芝と人工芝の2面のグラウンドを造成し、クラブハウスやトレーニングルーム、半屋外練習場なども整備させて頂きました。今後は、丸和運輸機関がスポーツ先端科学の共同研究を15年間に亘って支援させて頂くものとしております。

この共同研究は、世界で初めての測定機器を用い、フィジカル面、メンタル面、戦略面で、選手およびチームの強化を図るとともに、将来的にはこれを国民の健康福祉にも応用できるものとお聞きしており、大変意義深い研究と大いに期待すると同時に感謝を申し上げます。共同研究によって丸和運輸機関ラグビー部は、ジャパンラグビーのリーグワン昇格を目指します。

また、東京大学様とはスポーツ先端科学以外にも、BCP、災害発生時の対応という分野において当社の社員を研究員として受け入れていただいておりますが、その他にも、自動運転や物流事業のDXなどの共同研究、ご指導も是非お願いいたしたいと考えております。

【「東京大学 丸和 柏FUSION フィールド」概要】

名称	東京大学 丸和 柏FUSION フィールド
場所	東京大学柏キャンパス（千葉県柏市柏の葉5丁目1-5）
整備面積	約52,000㎡
寄付内容	用地造成・外構工事等 一式 フィールド 人工芝工事等 一式 フィールド 天然芝工事等 一式 半屋外練習場 建設工事等 一式 クラブハウス・トレーニングルーム 建設工事等 一式

【共同研究概要】

共同実施者	国立大学法人東京大学 スポーツ先端科学連携研究機構（UTSSI） 丸和運輸機関ラグビー部「AZ-MOMOTARO'S」（アズモモタローズ）
研究内容	選手のコンディショニングの「最適化」と「強化」を合理的に達成する、 ラグビー選手のための最先端の<フィジカル・メンタル 強化システムの開発> ① 選手強化と戦術強化に役立てる研究 ② 選手の身体と心の状態を最適化するためのシステム開発研究